

第 52 回 日本小児神経外科学会（富山）に参加して

熊本大学病院 脳神経外科
植川 顕

2024年6月7、8日に富山国際会議場で開催された第52回日本小児神経外科学会に参加させていただきました。今回の学会テーマである「治療戦略と課題、そして世界へ」を基に、会場では、頭蓋骨縫合早期癒合症、「頭のかたち」の診療、水頭症、二分脊椎・脊椎先天奇形、頭蓋頸椎移行部病変、脳腫瘍、遺伝性疾患、てんかん、血管障害、外傷、などの各専門分野の最新の知見と治療方針、現在の課題を学ぶことができました。さらに今後のアカデミアの役割や日本の医療を世界へ向けて発信する力など、多くの発表と discussion を聴くことができ大変に貴重な機会となりました（写真1、2）。

さわやかな快晴の天候に恵まれ、学会以外の時間を利用して富山を観光することもできました。少し早起きをして、富山駅の近くのホテルから会場に徒歩で向かいました。城址大通りの市役所展望塔と富山県民会館と近くの通り沿いに、いくつかのモニュメントが並びます。その近くに、多くのノーベル賞受賞者とゆかりある『ぶり・ノーベル出世街道』の看板がありました。その先に、風情のある松川遊覧船乗り場と茶屋があり、富山城址公園に着きました。公園内を散策し、お堀や石垣や美術館、富山売薬の礎を築いた5代藩主前田利幸公の像などを見ながら歴史を感じました。富山城跡から会場は道向かいにあり、夕方に会場を出ると夕日に染まる富山城跡の美しい風景を見ることができました（写真3）。



写真1. 富山国際会議場・会場入り口

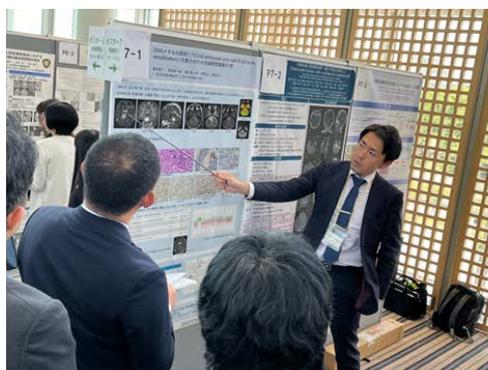


写真2. ポスター発表 (熊本大学 藤本先生)



写真3. 富山城跡



写真4. 食事会



写真5. 酒と肴



写真6. 富山ブラック・ラーメン



写真7. モニュメント「夢の聖地」



写真8. こどもたちがタイルに刻んだ夢

そして、やはり食事も学会の醍醐味の一つです。学会1日目が終わった後に、皆で夕食に集まり、熊本市民病院の牧野先生、田尻先生、熊本大学の篠島先生、藤本先生、甲斐先生と北陸の和食と日本酒を堪能しました(写真4、5)。日本酒にあまり馴染みがなく、九州の熊本で普段はもっぱら焼酎ばかり飲んでいる私は、北陸のお刺身や「のどくろ」などの新鮮な海の幸と本場の日本酒の抜群の相性にすっかり酔いしれてしまいました。おいしい食事と語りいで楽しい時間を過ごすことができました。さらに、B級グルメ派の私は、富山までの移動中にネット検索で「富山ブラック」の存在を知り、学会前日に富山に到着すると即座にお店に足を運んだのでした。「富山ブラック・ラーメン」は富山県内の黒色スープを特徴とするラーメンを総称です。醤油の風味が効いたスープがとてもおいしかったです(写真6)。富山の食を堪能させていただきました。

また、学会中の発表でも紹介されておりましたが、会場の近くに「夢の聖地」というモニュメントが建てられています。立山連峰と水をイメージした塔を中心に、市内の小学生が夢を刻んだタイルがその周りに敷き詰められています。たくさんの子どもたちの希望溢れるメッセージを見ると、勇気と活力が湧き、日々の診療の励みになりました(写真7、8)。

この参加記執筆の機会をお借りして、会長の富山大学医学部脳神経外科学 赤井 卓也先生をはじめ、学会運営に携わられた多くの先生方、スタッフの方々に大変感謝いたします。

(2024年7月7日)